

学校だより

令和6年9月30日
第6号
江戸川区立本一色小学校

あすなろ

羽柴秀吉に学ぶ ～忘れかけていた気働きの行為～

校長 すえまつ 末松 ちかし 睦士

この頃、気働きの行為やその言葉さえも日常の生活から遠くなっているように感じます。「気働き」という言葉を国語辞典で引いてみたところ、「その場に応じて、よく気が利くこと。機転。」と書かれています。つまり、気の利くことを意味しているのです。

気働きの意味を気の利くことと置き換えてみると、私は、羽柴秀吉の話思い出します。

その昔、鷹狩りに出た秀吉が、喉が渴いたので近くの観音寺というお寺に立ち寄りしました。すると、その寺にいた佐吉という小僧がお茶を出してくれました。

一杯目は、大きな茶碗にぬるめのお茶をたっぷり。「あのお侍さんは鷹狩りから帰ってきて『喉が渴いた。』と言っていた。」そう考えた佐吉は、たっぷりのぬるいお茶を出しました。

一杯だけでは足りなかった秀吉は、二杯目を頼みました。すると、佐吉は「一杯目を飲んで少し喉が潤っただろう。」と考え、少し熱めのお茶を濃くして、量は少なめで出しました。その時秀吉は、さっきとは少し違ったと気付きました。そして、わざと「もう一服。」と頼んだそうです。最後に佐吉は、お寺で一番いい茶碗に、熱くて濃いお茶をちょっとだけ入れて持っていきました。

秀吉は、「ここまで相手の立場に立って考える奴は使える。」と思ったのでしょう、和尚さんに頼んで佐吉を連れて帰りました。この佐吉は、後に若くして天下を動かす五奉行の一人にまで成り上がった石田三成です。

このように、相手の状況に応じ対応の仕方を「気働き」と言うのでしょう。「気働き」という行為は、人間関係を円滑にする大切なものなのではないでしょうか。



♪おやじの会主催「ウォーターバトル大作戦」

9月21日(土)に、校庭においておやじの会の皆さんが「ウォーターバトル大作戦」というイベントを開催してくださいました。

チームワークで勝負する楽しさを味わうことができました。

ありがとうございました。

